

## 講義の意図は、達したかな？

今年度の保育科生への最終講義を終えた。毎時間の出欠調べ兼用の感想に以下の追伸を下さった学生もいた。

「今まで何となしに『人は一人では生きていけない』とは言っていましたが、本当にこの授業の中で、細かく追求することができたことは、保育士として、人間としての支えになります。細かな考え方の先にある『人間が本来あるべき姿』が、漠然としたものから、確実なものへ形作られてきた気がします。先生、ありがとうございました。先生の授業は私を、毎回大きくしてくれるものだったので、大好きでした。」

「阿部さんの講義はたくさん考える講義でした。自分を見つめ直すこともあったし、障害について、この社会について、幅広くたくさんのことを考えることができました。この講義で一番学んだことは、人間誰でも一人じゃ生きていけないという事だった。支え合い共に生きることの喜びを人と関わることで感じていける人になりたいと思いました。」

「阿部先生に出会えてよかったと思います。先生の学生に対する関わりは、私に“問う”ということの本気でさせて下さったように思います。そして、これからも問い続けようと思います。ありがとうございました。」

「今までの阿部さんの話を聞いて、本当に心から様々なことを考え、想ってきました。自分の中で、これから自分がどう生きる、どうあるべきかを分かった気がします。今は、これからの夢に向かい、学校での授業を、自ら学び、自分のものにしていきたいと思います。いつまでも自分に問いかけられる保育士を目指し、頑張ります。」  
また、教科書として使った著書ではあるが、横道に逸れることが多く、十分に活用出来なかったにも拘わらず、予想外に著書についての以下の感想もいただいた。

「阿部さんの本の最後に載っている事例も全部読みました。この本は売っている他の本を買うよりも分かり易くて読みやすく私にピッタリだと思いました。私は本を読むのが大嫌いなのですが全部読めそうです。読みます！！」

「先生の書いた本を見ました。先生は、障害について若い頃一生懸命勉強したのだなあと感じ、阿部先生って、素晴らしいなと思いました。まだ本を全部読んでいないので、全部に目を通したいです。」

(2003年01月21日記)